

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス リーふ			
○保護者評価実施期間	令和8年2月10日		～	令和8年2月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	18
○従業者評価実施期間	令和8年2月10日		～	令和8年2月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月20日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境を工夫して活用した、実生活につながる幅広い支援の実施	近隣の自然豊かな地域環境を活かし、散歩や徒歩での買い物活動など、実生活に即した経験を取り入れております。また、事業所内においても空間の使い分けを行い、2階の指導室を活用した少人数での落ち着いた支援や、個別訓練(言語訓練等)を実施することで、お子さま一人ひとりに応じた関わりができるよう工夫しております。	事業所の構造をより安全で活動しやすい環境に改善していきます。また、事業所内外の環境を安全に活用できるよう、活動前の確認や振り返りを継続し、安心して取り組める体制づくりを進めてまいります。
2	保護者との信頼関係に基づいた、継続的な情報共有と共通理解の形成	日々の送迎時のやり取りや連絡帳等を通じて、お子さまの様子を丁寧にお伝えするとともに、ご家庭での状況についても共有いただきながら、相互理解を深めております。また、職員間でも情報を共有し、一貫した対応ができるよう努めることで、安心してご利用いただける関係づくりを大切にしております。	情報共有の質をさらに高めるため、お子さまの変化や成長について、より分かりやすくお伝えできるよう工夫してまいります。また、面談の機会を設けるなど、より丁寧なコミュニケーションを図ることで、ご家庭と連携した支援の充実につなげてまいります。
3	一人ひとりのニーズや課題を踏まえた、個別支援計画に基づく支援の徹底	定期的にケース会議を実施し、お子さま一人ひとりの状況や変化を職員間で共有するとともに、支援の方向性を確認しております。その中で、長期目標・短期目標を明確にし、職員全体の共通理解のもとで一貫した支援が行えるよう工夫しております。	設定した目標が日々の支援により反映されるよう、活動内容との関連付けを明確にし、職員全体で共有・実践できる体制を強化します。今後も、計画・実施・振り返りのサイクルを大切にしながら、より質の高い支援の提供に努めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士およびきょうだい間の交流機会の充実	保護者会等の開催には至っておらず、保護者同士の交流機会が十分とは言えない状況です。また、交流の機会として写真展を実施しましたが、その目的やねらいが保護者の皆さまに十分に伝わっていなかった可能性があり、交流の場としての機能を十分に発揮できていない点が課題と考えております。	今後は、保護者同士が安心して交流できる機会として、参加しやすい形での保護者会や小規模な交流の場の設定を検討してまいります。また、実施する取り組みについては、事前に目的やねらいを分かりやすくお伝えし、交流の機会としての意義が共有できるよう工夫してまいります。
2	地域の子どもの交流機会の確保	地域への外出活動(散歩や買い物等)は実施しておりますが、課後児童クラブや児童館、地域の子どもたちとの直接的な交流の機会は十分に設けられていない状況です。安全面や環境面への配慮が必要であることから、自然な形で交流機会を継続的に設定することが難しい点が課題と考えております。	今後は、無理のない範囲で地域との関わりを広げられるよう、公園や地域資源を活用した活動の中で、挨拶や関わりなどの機会を大切にまいります。地域の行事などへの参加を継続しながら、地域とのつながりを育む支援につなげてまいります。
3	関係機関との継続的・計画的な連携体制の強化	必要に応じて、学校や関係機関との情報共有や連携は行っておりますが、連携の機会や内容が個別対応にとどまることがあり、事業所全体としての仕組みづくりや情報の蓄積・活用という点に課題があると考えております。	今後は、関係機関との連携について、定期的な情報共有の機会を設けるなど、継続的に関わりができる体制づくりを進めてまいります。医療・保健・教育等の関係機関との連携先を整理し、必要に応じて適切に連携できるよう、ネットワークの強化にも努めてまいります。